

## 保育のヒント～「科学する心」を育てる～

環境の工夫／社会福祉法人顕真会 よいこのもり保育園・よいこのもり第2保育園

「なぜ?」「どうして?」を大切に「科学する心」を育みたいのですが…どうしたら、子どもたちに「なぜ?」「どうして?」が生まれ、自分たちで疑問を解決しようとするのでしょうか?

この事例では、環境の工夫により子どもたちが不思議を探求する体験に結び付きました。



### ○ 太陽って不思議だね／4歳児

#### ✦ きっかけ

天井がキラキラしていることに興味をもった子どもたちは、「保育者が動くとキラキラも動く」と気付いた。保育者が子どもの言葉通りに移動したことで、Aちゃんが保育者の持っているクリアファイルを指差し、「これだ!」と言った。すると、Bちゃんは「どうして?」、Cちゃんは「日向だと光るの?」、Dちゃんは「え、お日様が光ってるんじゃない?」と言い、こうしてやりとりをした子どもたちは、保育者の持っているクリアファイルに太陽の光が映って(反射して)、天井がキラキラ光ることが分かってきた。

#### ✦ 場面1：光るものを探してみよう

「じゃあ、僕たちの連絡帳は?」と連絡帳(樹脂ファイル)を持ってきて試してみる。日向に入れたり日陰に入れたりするが、光は映らない。「だめだ…」と諦めかけた頃、「あ、光ったよ!!」と金具の部分だけが光っていることにAちゃんが気付いた。

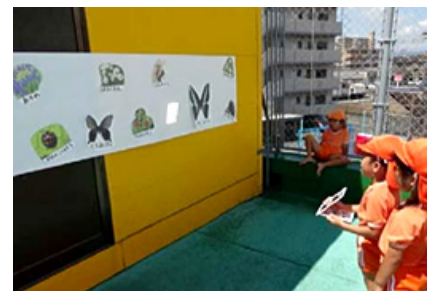
小さな光だったが、子どもたちには大きな発見で「もっと調べてみたい」という期待に繋がった。「他にも光るものあるかな?」「これはどう?」と、ボール、マット、クレヨンケース、プラスチックトレイなど、次々に調べる。そして探すうちに、プラスチックトレイは少し光が映ることや、保育者の持っていたカメラが光ったことに気付いたことで、「ピカピカしているものがいんだ」と発見する。



#### ✦ 場面2：光で遊ぼう

金や銀の折り紙が反射することが面白いようで、壁のくぼみに光を沿わせて「先生、迷路みたい」と言い迷路のように進んだり、友達と壁に光を映し出したりして遊んでいた。

的に近付き過ぎて影の中に入ってしまう、うまく反射することができずにいたAちゃんが「あれ?光らない」と言う。すると、Bちゃんが「もう少し後ろに来てみたら?」、Cちゃんは「お日様が当たっている所じゃないと光らないよ」と言った。Aちゃんが試してみると「本当だ」と言い、Dちゃんは「鏡を動かすと光も動くね」と言った。こうして、友達とやりとりをしながら考えて、太陽の場所を確認して立つ位置や持っている鏡の角度を変えて工夫し、気付いたことを話していた。曇ると光が薄くなったり、消えてしまうと、「太陽がないからだね」と知らせていた。



## ✦ 考察

反射する光を見つけたことで、「きれい」「面白い」とより一層、太陽に興味をもつようになった。「反射」という言葉を知らない子どもたちは「映る」「光る」と自分たちの言葉で感じたことを知らせ合い、そこから「どうして」という疑問をもって自分で探し、考え、比べていた。結果が自分の思うようになると、「違った」と考え直したりすることは、子どもがもっと知りたいという探究心を高めることに繋がった。また、子どもが「面白い」「どうして？」と探す中で、また新たな「不思議・疑問」が出てきて、子どもの探究心は限りないことを改めて感じた。

無断転載を禁ず。引用する場合は下記を必ず明記願います。

「(C)公益財団法人 ソニー教育財団

ソニー幼児教育支援プログラム 幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」